

## 教師力向上支援事業派遣研修報告書

- 1 所属・職・氏名 富山県立高岡商業高等学校・教諭・山科博子
- 2 研修期間 平成30年9月17日(月)～平成30年9月24日(月) 8日間
- 3 調査研究課題 海外教育事情視察による職業人育成のための教科指導法と教員の資質向上を目指した取組に関する調査研究
- 4 研修機関等 アメリカ合衆国西海岸(シアトル、サンフランシスコ)  
ボーイング社(エバレット工場)、航空博物館、在シアトル日本国総領事館  
ビーコンヒルインターナショナル小学校  
ジョンスタンフォードインターナショナル小学校、サンリアンドロ高校  
メンローカレッジ、ダニエル＝オキモト氏表敬訪問、エミリー・村瀬氏訪問

### 5 研修の概要

#### (1) 在シアトル日本国総領事館

山田洋一郎総領事を表敬訪問し、アメリカ合衆国及びワシントン州の社会情勢、教育事情全般についてレクチャーを受けた。

アメリカでは校長に大きな裁量がある。コミュニケーション能力が優れている子どもを育成することにより、多様性のある社会で、相手や周りの人を最大に生かせる力をコミュニケーションによって引き出す。自主性と行動力を高め、リーダーシップを育成する。州統一の学力試験があり、好成績の教科のみ飛び級をすることが可能である。

また、PTAの活動は寄付の文化であり、募金活動が活発に行われている。教員に対し、日頃の感謝の気持ちを込めて様々な企画を行う週間もある。

#### (2) ビーコンヒルインターナショナル小学校

シアトルの南部に位置。生徒数は463名で教員は30名。人種構成としてはアジア太平洋系、ヒスパニックが35%ずつ、白人が13%、アフリカ系アメリカ人が10%などとなっている。英語が第一言語でない生徒に向けた段階的なバイリンガルプログラム(全体43%の生徒が受講)、家庭の収入によって学校での食事が無料となったり減額となったりするミールプランの提供(全体の半数以上)が特徴的である。

教室はオープンコンセプトとなっており、一つの空間で3つのクラスに分かれて同じ課題を英語やスペイン語などで行われている。午前は英語で授業が行われ、午後は別の言語で授業が行われる。

育てたい生徒像として、学力を平均値まで持っていき、大学に行ってキャリアでも成功する人材を育成する。

#### (3) ジョンスタンフォードインターナショナル小学校

ウォリングフォードにある小学校で生徒数は約450名である。バイリンガル児童へのサポート体制が充実している学校の1つで、スペイン語と日本語でのイマージョンプログラムを提供している。

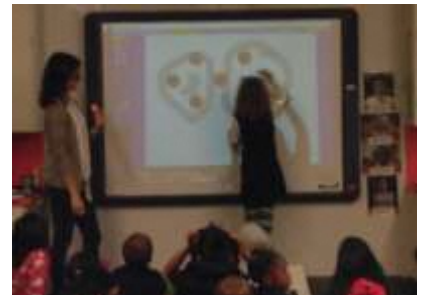
STEM教育に力を入れ、積極的に設備投資を行っている。全児童が一人1台コンピュータを使用できる。生活にテクノロジーを入れ、問題解決の道具として使う。

授業は常に二人体制で指導を行い、T2が授業で遅れる子への対応や進んでいる子への追加の課題を出すなど補助を行う。また、支援が必要な子に対する特別学級はなく、通常のクラスに入り、授業中に問題があれば特別指導員やカウンセラーが対応する。

#### (4) サンフランシスコ女性地位推進局長 エミリー・村瀬氏

サンフランシスコの教育システムについてレクチャーを受けた。サンフランシスコの公立の学校には、55,000人の生徒がおり、その36%が中国系、ラテン系は4人に1人、白人が1割ぐらいで非常に少なく、12%はその他である。これはサンフランシスコの子どもの構造と大きく異なり、白人の子どもたちは大概私立に行っている。54%は貧困層の家庭から来ている。

また、サンフランシスコには143校の学校があり、保育園が12、小学校が64校、中学が13校、高校が19校ある。他にもクオール・エンド・キャンティーン・スクールズという、家庭内でトラブルがあったり普通の高校ではあまりうまくいかなかった子たちの学校や、刑務所の中にも学校がある。



サンフランシスコの学校は小学校、中学校、高校においてそれぞれ選択制であるが、住所で決まるのではなく、自分で調べて好きな学校へ応募するシステムとなっている。

多様な生徒たちをサポートするリソースがあり、サンフランシスコは異民族が多いため、中国語やスペイン語しか話せない子に1年間英語を教え、そこから転校するシステムもある。

選択制の問題点は、人気のある学校はたくさんの方が選択するが、常に不人気の学校もあり、貧困層の家庭は売れ残っている学校しか入学でないため、差別的な傾向もある。

#### (5) サンリアンドロ高校

9年生から12年生までの約2,700名が在籍し、教職員は約120名。9年生が学ぶ高度マニュファクチャリング（ものづくり）、ICT（情報通信）、デジタルメディア、バイオサイエンス、社会問題研究など、教科書で学ぶ授業に加え、社会に役立つスキルを身に付けるためのプログラムを提供している。サンリアンドロ地区のビジネスや市議会と密接に連携し、地元企業で働く機会を作る高校生向けインターンシッププログラムもある。地元のビジネスコミュニティが高校と連携し、次世代の人材づくりに積極的に関与している。

また、2017年から2020年までの戦略計画を掲げている。戦略計画には5つの目標があり、この地区において何かを決めたり、新たな設備を買ったり、イニシアチブを開始したり、誰かを採用するときには全てこの戦略計画に基づいて行う。

#1 教える、学ぶ、達成する。

#2 大学に進学するすべての人に平等なチャンスが与えられる。

#3 この地区の文化をみんなが協力し合って、みんながもっと生き生きと仕事ができるような文化にする。

#4 家族やコミュニティとの絆を深める。

#5 施設とテクノロジーを充実させる。



#### ①制作体験

高度マニュファクチャリー、アドバンストマニュファクチャリーを学ぶ施設では、数学のスキルや、CADのソフトウェア、3Dプリンターを使ってデザインし、実際にプロトタイプ、模型をつくっていくところを視察した。参加の団員がイヤリングかキーホルダーを選択し、自分でデザインした図案を学生がパソコンに取り込んで画像処理を行い、3Dプリンターで制作してくれた。学生は9月に入学し学び始めたばかりで、慣れない手つきながら一生懸命作業をしてくれた。

#### ②製造技術、ものづくり工房

指導をしている先生の一人が日本の家具や建築に興味があり、釘を使わずに組み立てる技術で作品を制作する課題も行っていった。

#### ③グラフィックデザインの授業

自分でテーマを選んで音声や動画、画像を編集する作業を行っていた。1カ月に1作品のペースで提出させている。テーマは生徒たちが自由に設定する時と、教員側で設定する時がある。英語や社会学の先生からのテーマや作文録音を基にプレゼンテーションを作成するものもある。これらは、言葉を知らないとなかなか完成できないテーマもある。生徒だけでなく指導者も勉強をして、一緒に課題を作成するという心構えで授業を行っている。評価の仕方は、ポートフォリオ形式で行っている。

#### ④バイオサイエンスの授業

犯罪生理学では、現場の証拠のマッピングを行う。指紋とデータベースを照合する、血液や死体を見る、人種や人間の骨を見ることなどをスキルとして学習している。学問ではないが実践しながら学び育てる。解剖学、生理学は専門の大学の単位として使えたり、地元のコミュニケーションカレッジのファイナル試験の単位として使える。

#### (5) 研修を終えて

海外教育事情視察を通して、特別なニーズに対応した指導や先進的な教育システムについて学び、子供の可能性の伸ばし方や未来のイノベーターの育成を考える上で大変参考になった。また、職業の専門指導を行う高校の視察では、地域と連携した人材育成が参考となった。生徒たちにこの経験を還元し、質の高い教育の提供できる教育のプロフェッショナルを目指して研鑽を積みたいと考えている。

最後になりますが、このような貴重な経験をさせていただいた経済同友会の皆様、富山県教育委員会の皆様に感謝申し上げます。